



我明如教論書

大日本圖書會館藏書	
一七函	二五號
四架	一冊

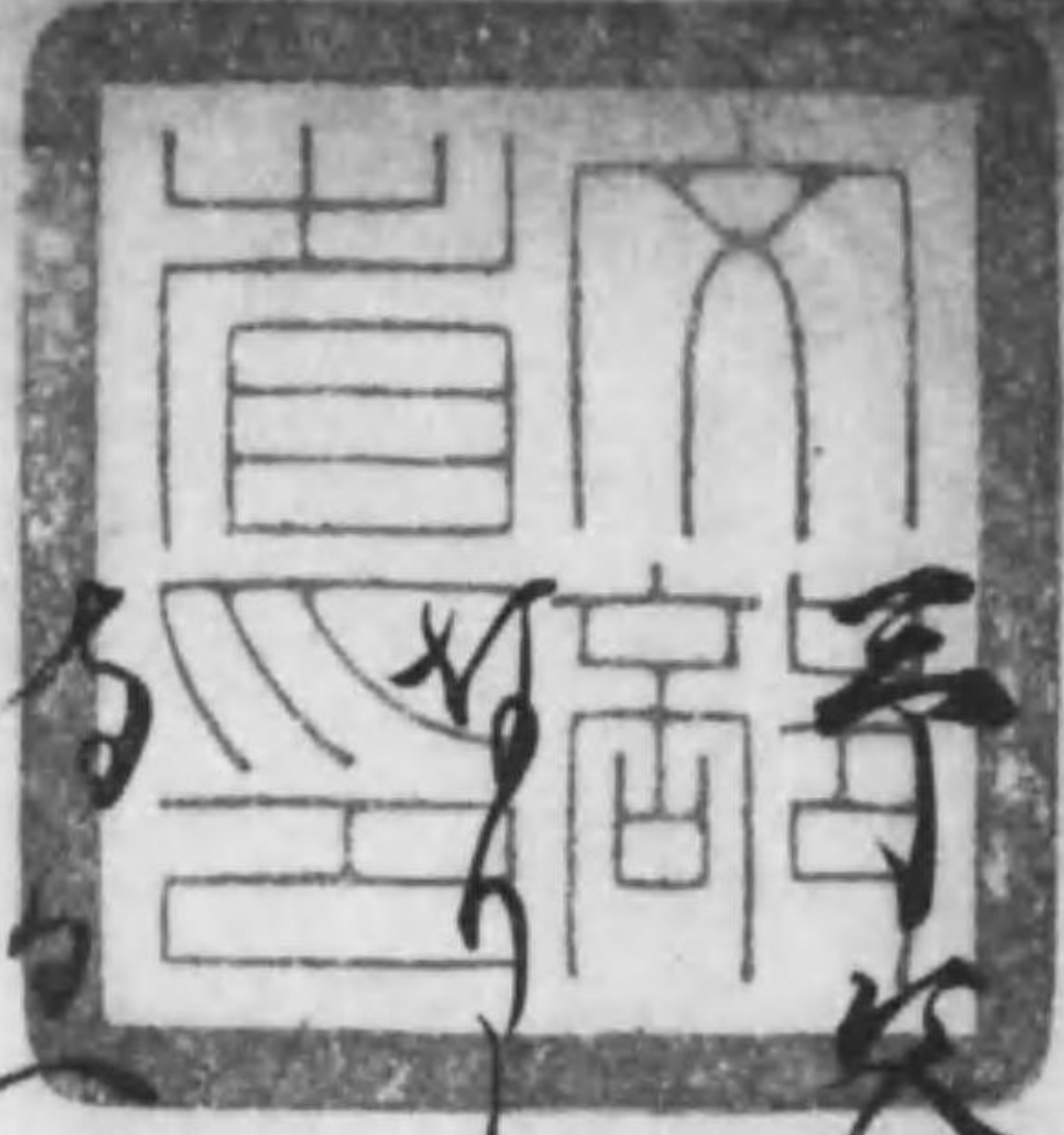
辛三
序本

一本
我明如教論書

始



特 279
315



手尖 法義 毫末 一 毫 一 毫 一
 代 之 業 主 の 化 風 也 乎 一 毫 一
 解 華 之 同 義 乎 一 毫 一 毫 一 毫
 驗 之 古 稀 之 一 毫 一 毫 一 毫 一 毫

市一龍指より... 化守より... 香ふと... 甘く祝融の業さ... 日... 後土活生の素懐と... 魚く恨史

魚く恨史

皇女と蒙りしものこと、殊に方今
維新の良政に志すもの、内儀此
と保女一外為皇女、當時人々
夙夜々

敷直に言ひ、
れ、

皇紀とて

皇威の耀り、

佛法の世に弘通す、

皇王大臣の護持より、

佛法の業、

皇法の禁令と、

天竺の書

王法と申すは徳の道

神の徳を人倫に示す

徳の徳を人倫に示す

是が徳之柔順の徳

崇徳身仁啓修礼儀の身

大徳の天下の徳

子如の徳

皇徳の徳一徳

徳の徳を人倫に示す

徳の徳を人倫に示す

徳の徳を人倫に示す

抄 法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

法苑珠林卷之四十四 戒律部 戒相 戒相

北地はれりて關山より乃法流
活る新詮地より乃白すく候
之とくも同ふの行若禁當の
候と老の年東乃申懐と為の
地消息と後めくふとく候
ふはとてはれりて申す候也

何なる〜

明治四年末年初林下句

右地消息と前住之遠訓と
祖師相承之宗義と法二端

之妙音也清一流業華琳達

洲進而立道

政令通而立辨出要後多之為

行要立也

壬申立正月

新石寺勢釋明如

終

